



北海道管区行政評価局総務行政相談部首席行政相談官室

加藤 鞠花 Kato Marika

人々の暮らしと行政をつなぐ

より良い社会への一歩

総務省の行政相談では、国民の方から主に国の行政に関する相談を受け付け、担当行政機関と異なる立場から解決や実現を促進しています。

その中で私は、全国にある行政相談の窓口のひとつである北海道管区行政評価局で、電話やメール等で相談を受け付け、対応する業務に携わっています。

一言で行政相談と言っても、相談の内容は多岐にわたり、すぐに答えられるものもあれば、制度等を調べ関係機関に話を聞かなければ答えられないものなど様々です。

はじめは、何か相談者の役に立てるのだろうかとプレッシャーに感じることもありましたが、相談内容を丁寧に聞くよう心がけ、上司や先輩方からアドバイスをもらいながら、一つ一つ対応していくうちに、自身の成長にもつながったと思います。

行政相談を通じてより良い社会にすべく、日々、業務を行っています。

忘れられない言葉

行政相談は、職員だけが行うわけではありません。総務大臣から委嘱された行政相談委員の方が全国で行政相談の担い手となっており、その委員活動をサポートするのも私たちの重要な仕事です。

ある時、委員の方から受けた事案の対応について相談がありました。そこで、関係する法令や支援制度等について調べ、委員の方を通じて相談者へ回答したところ、「こんなによく調べてくれるのならもっと早く行政相談すればよかった」と大変喜ばれたとのことでした。このように、自分の仕事が誰かの困りごとの解決に役立ったことを実感できるのは、この仕事の最大の魅力ではないかと思えます。

総務省は、人々の暮らしと行政をつなぎより良い社会にしていける、そんな仕事ができる場所です。皆さんも「暮らしの中に総務省」の一員として、働いてみませんか？



関東総合通信局情報通信情報通信連携推進課長

新井 篤史 Arai Atsushi

地域におけるICT利活用の推進

現場の声を聞きながら

私は現在、関東総合通信局情報通信情報通信連携推進課に所属しており、ICTを用いた地域の課題解決や地域の活性化を目指し、本省が行っている政策を地域に届ける役割を担っています。例えば、他省庁や自治体、NPOと連携してセミナーを開催し、課題の抽出や成功事例を共有したり、自治体と地元企業等が進めるプロジェクトに参加して、本省が企画した施策を周知するなど、地域におけるICT利活用の推進に取り組んでいます。

コロナ禍により直接会って話をすることは限られていますが、Web会議等を通じ、関係者から直接現場の声を聞くことができ、事業全体を見る立場では気づけなかった改善点に気づくとともに、その地域のために何ができるか考えながら業務を行えることが総合通信局の醍醐味だと思います。



ICTを通じた社会貢献

総務省に勤務して魅力を感じたことは、多様なフィールドで活躍する方々と仕事ができるということです。自治体関係者、民間事業者、大学教授やNPOなど、それぞれの背景や事情を考慮し、相手が必要としているものを考える業務は、ICTを通じて社会に貢献していると実感できやりがいを感じています。また、様々な立場の方との議論を通じ、多様な考え方にふれることで、自分にはなかった新しい視点に気づくとともに、自分の知識や考え方がアップデートされ、成長を感じることがあります。

さらに、仕事と私生活にメリハリがついているところも、総務省の魅力の一つです。テレワークやフレックスタイム制をはじめ、働きやすい環境や制度が整っており、女性だけでなく男性も育児休暇を活用し、家族との時間も大切にしながら仕事に取り組んでいます。



南相馬市副市長

常木 孝浩

Tuneki Takahiro

平成14年 4月 総務省採用 消防庁総務課
 平成15年 4月 自治財政局地方債課
 平成16年 4月 栃木県総務部市町村課
 平成18年 4月 自治行政局自治政策課
 平成20年 4月 自治財政局財政課企画係長
 平成22年 4月 消防庁国民保護・防災部防災課消防団係長
 平成24年 4月 各務原市都市戦略部企画財政総室財政課長
 平成26年 4月 自治財政局公営企業課公営企業経営室
 水道・工業用水道事業係長(自治財政局公営企業課公営企業経営室水道事業海外展開専門職併任)
 平成28年 4月 消防庁総務課会計第一係長
 平成30年 4月 消防庁国民保護・防災部防災課地域情報把握専門官(消防大学校庶務課主幹併任)
 平成31年 4月 自治財政局調整課主幹
 令和2年 4月 現職

福島県南相馬市のチャレンジにご注目ください!!

課題先進地にて日本の未来を変える

南相馬市は原発事故の影響で避難指示が出され、津波でも市域の約1割が浸水するなど東日本大震災で甚大な被害を受けました。人口は大幅に減少し、未だ多くの方が市外で避難を続けています。生まれる子供の数は震災前の半分。新産業の創出、農業の再生も必要です。地域医療や介護環境にも課題がまだまだ。移住施策や人材育成にも力を入れています。新型コロナも絶賛対応中です。これら全てについて市長を支え、課題を設定し、解決策を検討・実行するのが私の役割です。課題は本当に多い。間違いない。ですが、それだけにやりがいを強く感じています。「課題先進地での取組は日本全体にとっても貴重なんだ」とのモチベーションで挑戦を続けています。成果も次々出ています。最近嬉しかったのは雑誌のランキングで「若者が住みたいまち」・「子育て世代が住みたいまち」で東北第3位に選ばれたことです。紙面の都合上、他の取組は市HPにて。

豪快に横串を刺す

「ゼネラリストはいらない。スペシャリストが必要だ」。本当でしょうか。そんな事は全くないと感じています。当然シビアな要求に耐えうる分野があるのは自信になりますが、両翼が広いこともかなり重要です。スペシャルな人は本当にたくさんいます。勿論それを目指すもよし。ですが、課題解決のためにそういった人達を繋いだり、各分野も跨いだり、隙間を埋めたりする人材を目指すのも「あり」だと思います。課題はどんどん複雑になっています。豪快に横串をさせる人材が社会には必要なんです。

総務省はまさにうってつけ。経験と専門性のバランスを考えてくれます。私自身、消防庁が一番長く、東日本大震災や熊本地震も対応したので危機管理には一定の知見がありますが、3度地方に向出し、財政局では文部科学分野や水道事業、行政局では地域活性化を担当しました。変わり種では宇宙基本法にまつわる業務も。皆さんはどのように社会に貢献しますか？

WEEK SCHEDULE

MONDAY

事業構想大学院大学と新規プロジェクトについてのオンライン会議です。

TUESDAY

日本郵便との包括連携協定の調印式に参加です。

WEDNESDAY

避難指示解除から5年を経て念願の市立総合病院附属小高診療所が開所しました。

THURSDAY

市議会に出席後、教育・子育て施策について担当課を集めて協議です。

FRIDAY

議会に追加提案する補正予算を副市長として査定します。

PRIVATE TIME

新型コロナの影響でなかなか計画どおりにはいきませんが、週末は自転車でおいしいものを食べに行くことが多いです。意外かもしれませんが福島にはおいしいラーメン店がいっぱいあります。コロナが落ち着けば福島だけではなく、南相馬を拠点に東北中を旅行したいと思っています。今年は大型自動車免許の取得も計画しています。



総務省から自治体へ

幅広いフィールドで活躍する職員

守口市企画財政部長

西川 謙太 Nishikawa Kenta

総務省というところ

地方自治の最先端へ

私は今、大阪府守口市の企画財政部長として、コロナ禍における市民生活支援や事業者の事業継続支援の検討、市が目指す「ずっと住み続けたいまち守口」の実現に向け、子育て支援、学力向上、公園整備をはじめとする様々な事業の予算編成、行政のデジタル化、広報など様々な業務に携わっています。

地方行財税制度などを所管する総務省の職員は、霞ヶ関の中だけで汗をかいているわけではありません。私たちにとって最も身近な自治体である市町村で働き、市町村の現場で様々な意見を見聞きし、市役所職員のみならず、そして住民の方々と一緒に市を盛り上げていくために汗をかく機会があります。

また、このような機会を経て、現場感覚を持ちつつ、国として、自治体に混乱が生じないように気を配りながら施策を講じることができ、それが国民・住民の暮らしやすさに繋がっていく、このような姿勢で仕事ができるのは総務省の大きな魅力の1つです。

個性溢れる人材の宝庫

今この資料を手に入れている皆さんは、職業選択の岐路に立ち、希

望や不安な気持ちを抱えていることかと思えます。

総務省には、様々な自治体から多くの職員が派遣されてきます。少しでも多くのことを吸収し派遣元に戻って活躍したいという非常にエネルギーに仕事に取り組んでいて、それに負けじと総務省職員も切磋琢磨しつつ一緒に成長できる環境があります。頼りになる見習うべき上司や先輩方にもたくさん出会いました。苦楽を共にし、どんな悩みも相談できる心の支えとなる同期が私にはいます。人生の多くの時間を過ごすかもしれない場所で、社会人として人として成長できる、総務省はそんな職場だと私は思っています。

皆さん、是非、総務省の採用のドアを叩いてみてください。



長崎県地域振興部市町村課

石井 沙織 Ishii Saori

地方で経験と想いを育む

現場を知る

現在私は長崎県庁市町村課で、市町の財政に関わる仕事をしています。具体的には、下水道事業など公営企業に関する業務や、財源である地方債の業務を主に担当しています。

長崎県は離島を多く有していることもあり各21市町の特性は大きく異なるため、市町に合った助言等が必要となります。業務にあたる中で、法令等を参照するだけでは判断が困難な事例にぶつかることもありますが、県庁の関係部局とも情報共有・連携を図り、検討を重ねながら業務を進めます。ときには、国へ相談や掛け合うこともあります。

市町をサポートする立場として、多くの判断材料にあたり様々な可能性や選択肢を考えながら、少しでも市町の役に立てるよう心がけています。視察や日々のやりとりを含め、市町に近い立場で業務にあたり、現場を知る貴重な経験をさせてもらっています。

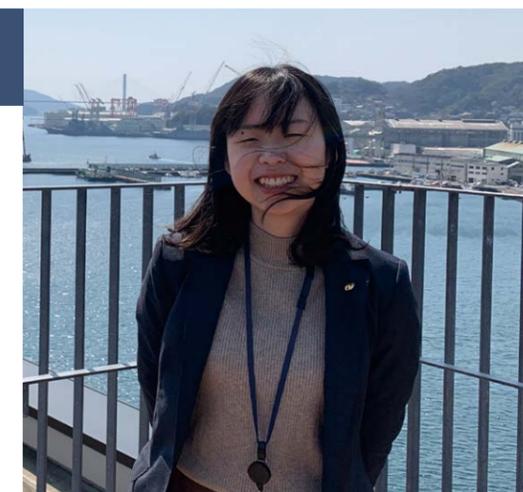
「ふるさと」への恩返し

入省後に在籍していた自治税務局では、他省庁や各政党の議論、法令改正など国でしか経験できないような非常にダイナミックな

業務に携わりました。その中で、地方のことを心から想いながら働いている職員の方々が、使命感を強く持ち、より良い制度を考え、深い議論を重ね、制度に反映していくというプロセスを体感したことは、刺激的で、非常に大きな経験でした。

職員各々が地方赴任の経験を活かし、また、各々の「故郷」を胸に、より良い制度を目指していく。これは総務省だからこそできることであり、大きな魅力の一つだと思います。

私自身、第二の故郷・長崎県で得た経験やご縁が今後の自分の糧と力となり、総務省での業務にも生きていくものと感じています。地方自治に少しでも興味がある方、是非一度職員の話聞きにいらしてみてください。



朝来市企画総務部政策担当部長

大林 崇人 Obayashi Takahito

地域の実情を知る

市民一人一人の幸せを目指して

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置した人口約3万人の自治体であり、天空の城とも呼ばれる竹田城跡や、日本遺産である生野銀山といった観光名所が有名です。

現在、私は市の政策担当部長として全庁的な各種計画の策定や行財政改革、地方創生、地域公共交通などに関する業務を担当しています。

この度、市の最上位計画である第2次総合計画が令和3年度で終わりを迎えるため、令和4年度を始期とする第3次総合計画の策定に従事しました。これまでは、急速な人口減少への対策を市の最重要課題として取り組んできましたが、新たな計画では、将来像「人と人がつながり 幸せが循環するまち ～対話で拓く朝来市の未来～」の実現に向け、市民一人一人が主役となり、市民との対話と対話として、市民が幸せを実感できるまちづくりに取り組みます。

自治体での経験を国で活かす

総務省は、地方のための制度設計を行う省庁であり、当然、地域の実情について把握する必要があります。自治体ごとに地域の現

状を抱える課題は様々ですが、一つの自治体でも自治体単位によって実情は異なります。

私は今、市の地域公共交通について、地域の実情に応じた運行体系の見直しを検討して

いますが、地理的条件や歴史的背景だけでなく、そこに暮らす方々の思いや考え方によっても市民ニーズは異なるため、誰もが納得できる施策を考えることの難しさと、地域の実情を理解し、地域の方々に思いを馳せながら施策を考えることの大切さを肌で感じています。

総務省ではそういった自治体勤務の経験ができるだけでなく、その経験を活かし、国として何をすべきかを考え実行できる職場ですので、ぜひ総務省職員として地方の発展を支えていきます。



宮崎県総務部市町村課

渡邊 千晴 Watanabe Chiharu

国から地方を、地方から国を考える

地方自治の現場からの気づき

私は今、宮崎県庁市町村課で、主に税制度について市町村村のサポートを行っています。

国の制度は年々変化していきますが、制度として成立するには、実務を行う市町村の協力が必要不可欠です。市町村課では各市町村が円滑に業務を運営できるよう、国の制度に関する周知や助言を行っています。制度の目的や背景を丁寧に説明することはもちろん、市町村ごとの課題に寄り添って考える必要があり、制度だけでなく「宮崎県」のことも日々勉強の毎日です。

また、市町村職員とやりとりする中で、国の制度に対する新鮮なご意見をいただいたり、自分自身も県の立場から国を見ることで、「ここはこうした方が良いのでは」と感じたりすることもあります。霞が関からは見えにくい、現場ならではの気づきを得られること、これは地方出向の大きな強みだと思います。

人とつながり、地方とつながる

皆さんと同じように将来について考えていた頃、私は「地方のために働きたい」と思い総務省を志望しました。このとき考えていた

「地方」は漠然としたものでしたが、総務省でのたくさんの出会いを通じて、「地方」というのは、支え、貢献したい存在として自分の中により強く感じるようになりました。

総務省は地方を思うたくさんの人と繋がる職場です。地方出向を経て第2第3のふるさとを思いはたらいた先輩職員、地方自治体から総務省にいられている職員、地方出向で出会えた方。その繋がりは年数を重ねるごとにどんどん広がっていき、自分の原動力になります。

貴重な出会いを経験でき、その繋がりを仕事に活かすことができるのは総務省の魅力だと思います。ぜひ一度、総務省の説明会にいらしてください。きっと心打たれる何かがあるはずです。

